Vol.2021-MUS-131 No.1
Vol.2021-SLP-137 No.1
2021/6/18

# 音学シンポジウム2021開催にあたって

高島 遼一[1,a)]　大石 康智[2]　中鹿 亘[3]　小川 哲司[4]　高野 佐代子[5]　加古 達也[2]　寺島 裕貴[2]

**概要**：2013 年から開催している音学シンポジウムは本年で 9 回目の開催を迎える．本稿では「音学シンポジウム 2021」について，実施の主旨や今後の展望について述べる．

## 1. はじめに

「音学シンポジウム」は，音に関するあらゆる学術分野をターゲットとして，シングルトラックによる招待講演とポスター形式による一般講演によって構成される学術イベントである．2013 年 5 月に初めて開催され，本年は 9 回目の開催となる．本稿では，音学シンポジウムの企画動機・趣旨の振り返りと現在に至るまでの変遷から，本年度のシンポジウムの概要について説明する．その後，本シンポジウムの将来の可能性について述べる．

## 2. これまでの音学シンポジウム

第 1 回目の音学シンポジウム 2013 は，情報処理学会音楽情報科学研究会（SIGMUS）[1] の 20 周年記念企画の 1 つとして企画され，2013 年 5 月 11，12 日にお茶の水女子大学で開催された．この企画は，画像処理分野において日本国内で最大規模のシンポジウムである「画像の認識・理解シンポジウム（Meeting on Image Recognition & Understanding:MIRU）」にインスパイアされて実現されたものである [2]．これまでの音学シンポジウム全体で踏襲されている基本コンセプトは，

- 音・聴覚・言語に関するあらゆる分野を対象とすること
- シングルトラックによって進行すること

の 2 点である．大規模な学会では，分野やトピック単位でセッションが区切られ別々の会場でパラレルセッションとして開催される．本シンポジウムでは，あえて様々な分野を束ねてシングルトラックにより進行することにより，分野間での議論・交流をより活性化させようという狙いがある．

表 1 は，これまでの音学シンポジウムの開催日時，開催場所，ポスター発表件数を示す．各回概ね 12 件の招待講演・チュートリアル講演が企画されておりポスター発表件数は延べ 420 件以上となる．また，音学シンポジウム 2016 では「MIRU 連携オーガナイズドセッション」が企画された．これは，MIRU と連携し，音と画像それぞれの研究者が

(1) 信号処理と逆問題
(2) 認識と変換
(3) 応用とインタフェース

からなるトピックについてトークバトルをするものであり，大変盛況であった．

音学シンポジウム 2020 は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により，会場開催を急遽取りやめ，オンライン開催となった．またこの年は同様の理由によって複数の学会が中止となっていたため，音学シンポジウム 2020 では，学会中止により発表できなかった研究内容を発表する「エキシビジョンポスター枠」を設けた．このような試みがあったこともあり，非常事態であったにも関わら

**表 1**　これまでの音学シンポジウムの変遷

| 開催年 | 日時 | 開催場所 | ポスター発表数 |
|---|---|---|---|
| 2013 | 5/11-12 | お茶の水女子大学 | 51 件 |
| 2014 | 5/24-25 | 日本大学 | 66 件 |
| 2015 | 5/23-24 | 電気通信大学 | 61 件 |
| 2016 | 5/21-22 | 東海大学 | 37 件 |
| 2017 | 6/17-18 | お茶の水女子大学 | 47 件 |
| 2018 | 6/16-17 | 東京大学 | 53 件 |
| 2019 | 6/22-23 | 京都大学 | 56 件 |
| 2020 | 6/6-7 | オンライン開催 | 58 件 |

1　神戸大学
2　日本電信電話（株）
3　電気通信大学
4　早稲田大学
5　金沢工業大学
a)　rtakashima@port.kobe-u.ac.jp

ⓒ 2021 Information Processing Society of Japan

表 2　音学シンポジウム 2021 実行委員会

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 高島 遼一 | （神戸大学） |
| 副委員長 | 大石 康智 | （日本電信電話（株）） |
| 副委員長 | 中鹿 亘 | （電気通信大学） |
| 委員 | 小川 哲司 | （早稲田大学） |
| 委員 | 高野 佐代 | （金沢工業大学） |
| 委員 | 加古 達也 | （日本電信電話（株）） |
| 委員 | 寺島 裕貴 | （日本電信電話（株）） |

ず例年とほぼ同数の発表が行われ，盛況であった．

## 3. 本年の音学シンポジウム

本年の音学シンポジウム 2021 は昨年度と同様に，新型コロナウイルス感染症対策のため，オンライン形式にて 6 月 18 日，19 日に開催される．2014 年の音学シンポジウムより，MUS 以外の多様な意見を積極的に取り入れるため，実行委員会を立ち上げ協賛研究会から 1, 2 名ずつ参画する形式を採用している．2018 年より音声言語情報処理研究会（SLP）[3] が主催研究会に加わり，MUS と SLP との共催研究会の形式となった．2020 年からは，音声研究会 [4] が連催（学会が異なるため共催という表現は使わないが，実質的には共催と同じである）となり，MUS，SLP，SP の共催研究会の形式となった．また，以下の研究会（電子情報通信学会応用音響研究会／日本音響学会電気音響研究会（EA），日本音響学会聴覚研究会（H））が協賛研究会となっている．表 2 は，実行委員会のメンバー一覧である．

音学シンポジウムでは，招待講演の理解を促進するため，招待講演とチュートリアル講演を組み合わせることができるような構成にするとともに，チュートリアル講演＋招待講演，招待講演のみなど柔軟な対応ができるようにしている．本年は，招待講演者として以下 6 名の方々に招待講演をお願いすることとした（発表順，敬称略）．

- 積山 薫 （京都大学）
- 金子 卓弘 （日本電信電話（株））
- 井上 昂治 （京都大学）
- 渡部 晋治 （カーネギーメロン大学）
- 北原 鉄朗 （日本大学）
- 羽田 陽一 （電気通信大学）

本年度の特色として，オンライン開催であることを活かして，海外の研究機関の方にも招待講演して頂けるようになった点が挙げられる．ポスター発表は，申し込み時点で 63 件の申し込みがあり，概ね従来と同程度の件数の申し込みを頂いた．

## 4. これからの展望

これまでの開催を通して，音学シンポジウムは関連分野において高い認知度を有している．新型コロナウイルスの影響により，昨年度から様々な学会がオンライン形式で開催されている．当初は主催者側，参加者側ともにオンライン会議ツールに不慣れなためトラブル等もあったが，ノウハウの蓄積や参加者の慣れにより，回を重ねるにつれてトラブルは減りつつある．オンライン開催は会場開催に比べて遠方から参加がしやすく，さらに海外在住の研究者も参加できるといった魅力がある．新型コロナウイルス感染症の拡大が沈静化し，会場開催ができるようになった際は，オンライン会議ツールを引き続き使用するかも含めて，以降の音学シンポジウムの実施形態について改めて議論する余地があるように思われる．

現在は，研究会の在り方そのものから議論される時代であり，音学シンポジウムについてもより良い姿を模索する必要があるといえる．例えば，本シンポジウムの口頭発表は全て招待で構成されているため，一般講演が全てポスターとなっている．毎年実施しているアンケートにも口頭発表の一般枠についても要望があることから，本シンポジウムに適した口頭発表のスタイルについては検討する必要があるように思われる．

## 5. おわりに

「音学シンポジウム」は今年で 9 回目を迎え，チュートリアル・招待講演を組み合わせた柔軟なスタイルを作るなど，マイナーチェンジを経て現在の形に落ち着いてきた．本年度は昨年度と同様にオンライン形式で開催するが，オンライン会議ツールの変更や昨年度に得たノウハウを活かして，より円滑な運営ができるように務める．音学シンポジウムは例年様々な分野のチュートリアル・招待講演が複数行われ，また MUS，SLP，SP の共催研究会の形式であることから，音に関する幅広い分野を扱う会となっている．さらにオンライン形式としたことで気軽に参加できるようになり，多くの研究者にとって有益な会になると期待している．

### 参考文献

[1] 情報処理学会音楽情報科学研究会 (MUS), http://www.sigmus.jp/
[2] 亀岡弘和 他, “「音学シンポジウム 2013」開催にあたって,” 情報処理学会研究報告, 2014-MUS-103-1 / 電子情報通信学会技術報告, IEICE-SP2014-1, May 2014.
[3] 情報処理学会音声言語情報処理研究会 (SLP), http://sig-slp.jp/
[4] 電子情報通信学会・日本音響学会音声研究会 (SP), https://www.ieice.org/~sp/jpn/

ⓒ 2021 Information Processing Society of Japan